

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

№1778長期変動 CH20顕著特異 4/25.7 終息 短時間のため←直前変動の可能性有
4/30±2 発生の可能性示される

Stage-33は、
3/20±1を示す

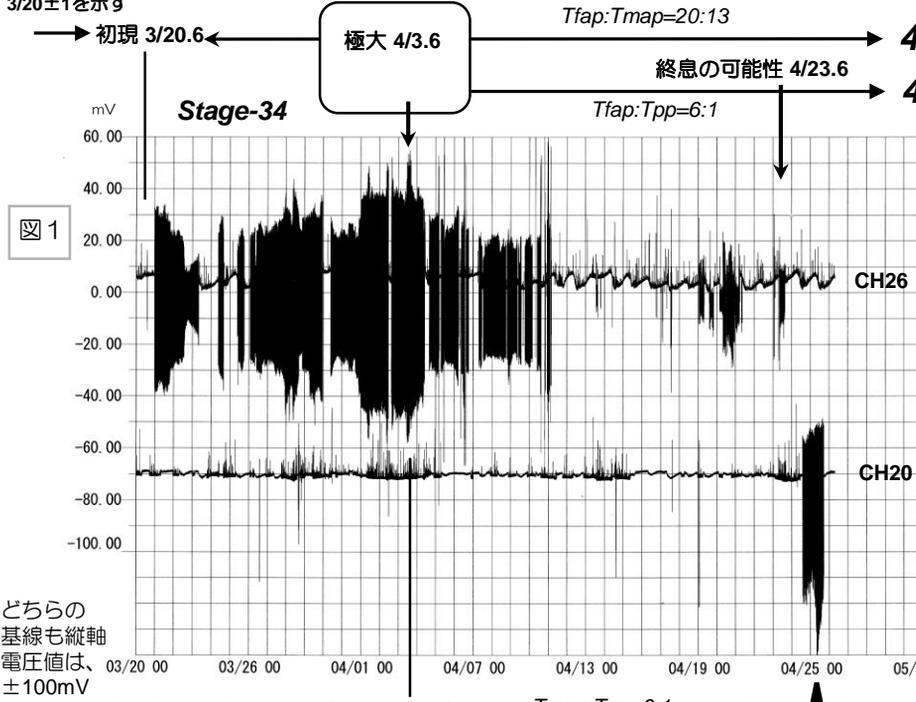


図1

どちらの
基線も縦軸
電圧値は、
±100mV
で表示。表示スケールは
CH26に合わせてあります。

4/29±3 発生の可能性
4/30±2 発生の可能性

◆昨日の情報でCH20に顕著特異が出現したことを報告しました。別形態前兆変動の可能性を考えましたが、図1の下基線のとおり、短時間で終息してしまいました。このため、別形態前兆変動という認識は困難。考えられる可能性としては、直前変動の可能性です。

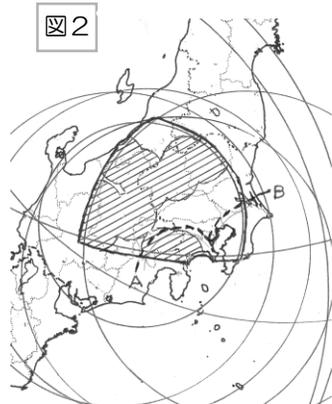
◆CH26の極大を従来の4/3.6とし、4/25.4のCH20の顕著特異を直前変動と仮定しますと、Tmap:Tpa=6:1 経験則から4/29±2の可能性が求められます。また、CH26の4/3.6極大に対し、CH26の短時間出現の最後の顕著特異4/23.6を変動終息と仮定しますと4/30±2が求められます。

◆以上のとおり、CH20に現れた短時間の顕著特異変動を直前変動と認識した場合は4/30±2が示されます。

極大 4/3.6 Tmap:Tpa=6:1 直前変動の可能性 4/25.4 → 4/29±2 発生の可能性

◆CH26のPBF特異変動は現在も継続出現中です。上で求められた可能性4/30±2 時期に対応地震が発生しない場合は、CH26のPBF特異完全終息を観測し、再考したいと考えます。

図2



●推定領域：図2の太線領域内＝大枠推定領域
図2斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で
約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい。

●推定時期： 4月30日±2 の可能性が現状考えやすい
上記時期に発生が無い場合は今後の観測を鑑み再考し、続報します

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3
※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。